環境パートナーシップちば
だより
— つながれ ひろがれ —

Vol.44
編 集 環境パートナーシップちば
代 表 加 藤 賢 三
事務局 千葉市中央区中央港1-11-1
(財) 千葉県環境財団環境技術部
環境活動推進チーム
電 話 043−246-2180
FAX 043−246-6969

屋形船に乗って印旛沼を良く見てみよう！
～印旛沼をきれいにする活動～

千葉　智雄

＜印旛沼をきれいにする活動＞

「環境パートナーシップちば」の 17 年度の主な事業である「印旛沼をきれいにする活動」が、7 月 24 日「屋形船に乗って印旛沼を良く見てみよう！」を皮切りに始まりました。2 年目となるこの活動は、流域から印旛沼を考えてみようと、夏休みに小・中学生の親子を対象に、生き物調べ・ごみ拾いなどの参加体験活動です。

＜印旛沼の景色は美しかった＞

7 月 24 日、親子合わせて 46 名が西印旛沼に集まり、水循環と水質調査を行ないました。オランダ風車を脇に見て、岸辺から見る印旛沼は、美しく、問題をかかえた沼には見えませんでした。

＜乗船準備＞

ライフジャケットを着用して船に乗ることは、印旛沼では珍しいようです。万一の場合に備えて着用し、子供たちは探検隊気分です。

＜いざ出発＞

さくら丸と平成丸の 2 艘の舟に分れ乗船。西印旛沼を 2 時間近くかけ、船上から沼の姿、植物、生き物、水質などを、子どもたちが自ら見て、調査しました。

講師の先生は印旛沼環境基金の本橋先生と千葉工大の瀧先生。2 人とも、天使たちを相手に楽しそうです。

＜印旛沼の水の用途を学びました＞

水面は鏡のように静かでした。印旛沼の水は、飲料水・工業用水・農業用水・そして漁業で使われています。沼の水量は常にコントロールされています。

＜印旛沼の治水の役割を学びました＞

印旛沼の水は、利根川の水と、雨水と、陸地から沼や周りの川に流れ込む地下水と、家庭などから川に流され込む汚水等です。沼に流れ込む水が台風などで雨量が増えると、大和田排水機場から花見川経由で東京湾に流します。忘れがちですが、印旛沼は洪水対策に大きな役割をはたしています。

＜水はきれいかな？調べてみました＞

沼の中の一本松機場側と浄水場取水近くの 2 地点で、水調べをしてみました。透視度は 25 から 26cm でした。温度・水温・臭い・色なども調べ、全員で COD のパックテストをしました。数値は全て 8 を越えていました。飲料水には？です。この水を浄水場で浄化し、千葉市を中心に 150 万人近くが飲んでいます。

＜ヘドロ？も調べてみました＞

沼の底に溜まっているヘドロを船頭さんがすくいあげ、皆で覗き込みました。

濡れていると真っ黒、乾くと黒に近い灰色でした。匂いはあまりしません。成分はなんでしょうか。沼本体の汚れは、ヘドロから発生しているようです。

＜生き物も観察しました＞

ナガエツルノゲイトウやオニビシなどの植物や、野鳥が飛び交うのを眺めました。

このナガエツルノゲイトウは、新川・桑納川にも広がっているようです。

＜水の中の流れ＞

新川の水は北の方に流れ込み、鹿島川の水は西の方に流れ込んで、互いに押し合いしているので、穏やかに見える水面も、実際は強い流れがあると瀧先生の説明がありました。

＜子供たちの感想＞

船から降りた子どもたちに『私は印旛沼のために何ができる？』と聞いてみました。

多くの子どもたちは、「家庭から汚れを出さない」と言うことでした。また、「食べるものを残すと沼は汚れる」、「余っても流さない」などありました。

私達大人は、「もったいないことするな」と親に怒鳴られながら育ちましたが、何時しかそれを忘れ去ってしまいました。そして今、改めて子供たちに言われて「もったいない」を思い出しました。

印旛沼の水循環の健全化、水質の改善の基本は、この精神にあるのかも知れません。

これから始まる流域での「親子体験活動」など、今後の報告が楽しみです。

～環境フェア～各地･いろいろ･盛りだくさん！

船橋市　体験しようをテーマに環境フェア

大西　優子

第8回を迎える船橋市環境フェアは「体験しよう！」をテーマに、6月11日船橋中央公民館で開催されました。例年のように市民団体･企業･行政の60余団体が､パネル展示と体験実演を含めて環境問題をアピールしました。

環境パートナーシップちば・ふなばしとしては、ストップ地球温暖化千葉会議が出展しました。

小さな子どもも稼動させられるように作成した「パワー君を回してエネルギーで風洞の中の風船を浮き上がらせる装置」は、自分がハンドルを回すと色鮮やかな風船がふわふわ動き出すのがおもしろくてパワー君を手放さない子や、何度もやってくる子どももいました。

今年度購入した「CO2 測定器」で測ると、会場の空気はほぼ650ppmでしたが､鉢植えをビニールで覆い明るい所(この日は太陽光がのぞめなかった)に置き、下からCO2測定器を差し込むと見る見る内に400ppmを割り、植物のCO2 吸収を実感することができました。体験実験をしていると、多くの方からこのようにしたらどうかとか助言もあり楽しいものです。

実行委員会のメッセージボードより：　「ごみを分別している時環境にやさしいことをしているのだなあと思う」「地球温暖化対策は私たち1人1人の自覚が大事だと思う」「地球を大切に、リサイクル、温暖化など考えていこう」「食べ物を作り過ぎない、捨てない、もったいない精神で行こう！」「地球は私たちのお家です。大切にしなくちゃいけません！」「地球大好き、人間大好き、太陽大好き！」

千葉市　初！『ちばし手づくり環境博覧会』開催！

2005ちばし環境フェステイバル活動発表実行委員会　桑波田　和子

6月3日（金）「2005ちばし環境フェステイバル」が、千葉市・2005ちばし環境フェステイバル活動発表実行委員会主催で開催されました。その一環として「ちばし手づくり環境博覧会」を11時から14時まで開催しました。前年までは、著名人の講演と市の取組みの紹介、市民団体・企業の数団体の紹介でした。千葉市内には多くの環境活動市民団体がありますが、一同に会し、また団体を紹介する場を願っていました。今回は行政のご理解のもと、市から市民活動団体に広く呼びかけ、企業も加わり実行委員会形式で開催することになりました。

「環境パートナーシップちば」もこの呼びかけに賛同し、おまけに実行委員長の大役も引き受ける事になりました。手を上げた実行委員は市民団体と企業から12名でした｡実行委員会を数回かさね準備してきました。当初予定の30団体を超え、34団体を受け入れ、狭いながらも温かい『ちばし手づくり環境博覧会』となりました。内訳は市民団体24、企業10です。ここで一番の懸案事項だった「会場にたくさんの市民の方に来ていただきたい」は、受け付けの場所を博覧会の会場にするなどの工夫をしました。おかげさまで約350人の方が来場されました。

展示は、環境学習関係、温暖化問題、自然、食、廃棄物問題、リサイクルのゾーンに分けました。参加者に活動の説明や、また、団体･企業との情報交換など、お互いの交流の場にもなりました。

千葉市では、市民・企業・行政でのパートナーシップでの開催は歩み始めたばかりですが、今年は力強いスタートとなりました。来年度は、より多くの団体へ呼びかけ、参加ご協力をいただき千葉市の環境がよりよくなることを願っています。

佐原市　行政組織（担当課）と共にイベントを取り組んでみて

佐原ＧＯＮＥＴ代表　森　登美子

環境保全担当課の担当職員の個人的発想から出発した「市民参画のテーブル」に、様々な＜思い＞を持つ市民が就き、その「料理」としての環境問題啓発活動として、「佐原市環境フォーラム（今年は敢えて名称を変更して『佐原市環境市民フォーラム』としました）」があります。

そのイベントも今年で４回目を迎え、当初より関わらせて頂いた私が、関わる多くの方々のご協力で、今年は実行委員長という大役をさせて頂きました。

今までの様々な経緯と問題を孕みながら、このイベントの開催を通して＜市民合意の形成＞という命題を廻って、実践させて頂きました。

そもそも用意されたテーブルの用意された「料理」です。そのことの問題の本質を見つめることなく、「料理が気に入らないとか、不味いとか」の感想の述べ合いから始まって、やっと今年「ともかく環境問題を出来るだけ多くの市民に知ってもらおう」という合意に至るまでの＜話し合い＞は、「議論とは何か？」という本質を明示するものでした。

物事を客観的に見つめる為に、調査･検証していき、提案、対案として提出していく行程を辿っていくという、行動としての啓発・啓蒙の意識を持たずして、意見と称する感想を述べ合っていることを議論と勘違い

していては、＜心に訴えかける活動＞にはなり難いと考えます。

「環境問題に対する意識の高低」ということより、行政組織の在り方も含めて、「皆で議論をして、物事を決め、皆で実行して行く」という、民主主義の本質を考えさせられる事象が多々有ります。

＜環境教育＞のツールとしてある「アクティビティ」の活用を、子供たちだけでは無く、もっと成人と言われる私たち、取り分け環境問題に関わる私たちこそ、環境活動に実質的に活用していかなければと、再認識致しました。

浦安市　―みんなで止めよう温暖化！みんなで打ち水大作戦―

横山　清美

今年の浦安市環境フェアは、７月９日（土）ＪＲ新浦安駅前広場を中心に開催されました。テーマは、「みんなで止めよう温暖化！」駅前広場テントと駅前ビル内の市民プラザにて企業・市民団体・環境部各課が展示や体験活動を準備してにぎやかに開催されました。

私の所属団体「浦安三番瀬を大切にする会」「浦安自然まるごと探検隊」では、テント内で日の出干潟の生きものを水槽で紹介したり、三番瀬クリーンアップ大作戦の写真展示などで三番瀬を多くの市民の皆さんに知っていただく発表をしました。又子どもたちには三番瀬の生きものの写真を用意して缶バッジつくりコーナーを設けたのがなかなか人気を集めていました。

全体内容のご紹介は三番瀬テントのとなりが、ステージだったたこともあって、力が入ったイベントを間近で見ることになりましたので、ステージの紹介をさせていただきます。子どもや往来の人も立ちどまって楽しんだストリートパフォーマンスや林家ライス・カレー子の環境漫才、そして歌あり踊りありの「打ち水大作戦」の中では市民参加型「打ち水ファッションショー」も登場するなど大変楽しませてもらいました。浦安市の人気マスコット「クルン」「グルン」も１８年１月から始まる指定ゴミ袋をやさしく説明など、ステ

ージは環境啓発大ブレイクの感があった環境フェアでした。

反省点は、各団体の発表に今年のテーマを盛り上げるようなコーナーがあっても良かったかと思ったことでした。これだけ温暖化防止をテーマに盛り上げるなら各テントでもある時間一斉に打ち水をしてみるとかの共通イベントがあってもみんなで盛り上げられ、良かったような気がしました。打ち水やってるかなあ市民のみなさん。浦安市には、打ち水大作戦評価をお願いしたいものです。

環境シンポジウム２００５千葉会議に参加を！

環境シンポジウム２００５千葉会議実行委員長　大西優子

今年で第 11 回を迎える「環境シンポジウム千葉会議」は、「持続可能なパートナーシップを求めて」を1・2回のテーマとして開催し、10･11回は「千葉からアクションを！」とテーマも発展してきました。第 2 回以降は実行委員長を環パちばの会員が偶然にも務め、実行委員としても環パちばは大きく支えてきました。

環境シンポジウム千葉会議は目的とする市民･企業･行政の結びつきを深め､環境教育と環境保全活動の啓発･交流を積み重ねてきました｡近年は大学が加わった４者のパートナーシップで開催しており、青年たちの参加を得てこれからの環境活動の発展を討議できることは心強い限りです。

今年２月の京都議定書の発効を受けて、各分科会は21世紀最大の環境問題「地球温暖化防止」に焦点を当てさまざまな工夫を凝らしています。ぜひ、一人でも多くの人に参加を呼びかけてくださるようお願いいたします。

第１分科会（地球温暖化防止）９月10日（土）10時～16時 千葉大学西千葉地区総合校舎
第２分科会（ゴミ問題）９月11日（日）13時～17時 日本大学生産工学部
第３分科会（里山･川･湿地）９月９日（金）13時～16時 千葉大学西千葉地区総合校舎
第４分科会（環境教育）９月24･25日（土･日）13時～15時 県立手賀の丘少年自然の家
第５分科会（環境保全）10月１日（土）10時～16時 日本大学生産工学部
全　体　会　11月13日（日）10時～15時 千葉大学西千葉地区総合校舎
お問い合わせ･申し込み先 FAX047-336-3785　TEL070-5584-5940
e-mail/chibakaigi@hotmail.com　http/www.cit.nihon-u.ac.jp/chibakaigi/

「エコメッセちば２００５は協働の現場」

エコメッセちば２００５実行委員長　加藤賢三

「エコメッセちば」は持続可能な社会の実現をめざして、市民・企業・行政のみんなが良好なパートナーシップのもとに協働し､開催する環境活動見本市です。子どもも大人も、みんなでつくる環境のためのお祭りです。あなたも私も千葉の環境の輪を拡げようという掛け声の中で、ちょうど、今年は10年目を迎えます。

今年は**「めざせ、循環型社会　～熱っぽいちば　アイスる地球～」**をテーマに、地球温暖化防止活動を推進する形で以下のように開催します。

いままで、市民活動団体、企業、行政などから多大なご支援をいただきながら、この活動に賛同する市民・企業・行政などの代表者からなる実行委員会を設けて、行事の企画・運営を行ってきました。エコメッセちば２００４については、「県と NPO との協働事業」として実施し、パートナーシップによる環境保全活動の推進という所期の目的を達したところです。

今年の展示部門では、

- エコ商品の販売、製品展示、パネル紹介など。
- 市民団体等の環境活動の紹介
- 企業等の環境対策、環境事業の紹介
- 自治体等の環境施策、環境事業の紹介
- 学校等における取り組みなどの紹介

また、会場内では、エコステージとしては、子供たちによる、印旛沼の水質調査、もったいないメッセージの発表、ロックソーランなどに続き、環境クイズ、クマゼミ調査、高森篤子氏の童謡などと使いまわしファッションショーのジョイントなど､盛りだくさんの出し物が用意されています。

エコメッセちば２００５は昨年に続き、幕張メッセで開催しますが、当日は国際展示場で東京ゲームショウが開催されます。子どもたちが楽しみながら環境について学ぶ良い機会かと思います。パートナーシップを今後も推進し、また、さらなる発展のために、多くの皆さんのご参加をお願いします。

エコメッセちば２００５

日時：　平成17年９月18日（日）10:00～１７:00
場所：　日本コンベンションセンター国際会議場（幕張メッセ）
問い合わせ先：　TEL　０８０－１１５２－６５３８
FAX　０４３－２４６－６９６９
E-mail：　info@ ecomessechiba.jp
ホームページ：　http://ecomessechiba.jp

STOP 地球温暖化 in メッセ
(エコメッセちば２００５の併催事業)

日時:平成１７年９月１８日(日)13:00～16:00
場所：幕張メッセ国際会議場２階国際会議室
主催：千葉県地球温暖化防止活動推進センター、千葉県

「環境教育教材の充実の具体化へ」

白子町　石井　晧

千葉県環境学習基本方針は 1992 年（平成 4 年）3 月に制定されており、全国的にも環境教育に対する取り組みは早い。したがって、環境教育教材の充実は当然に期待される。そこで、姉妹州の米国ウィスコンシン州（以下 WI と記載）と千葉県を比較してみよう。ここでいう教材とは教材と教員などを含む。WI 州の制度記載は 1996 年の同地視察に基づく。現状は WEB サイトから確認できる。1989 年に同州環境教育法（Wisconsin Act 299）の制定がなされた。この環境教育のシステムは次の 3 本の柱からなる。

その 1；環境教育委員会（Environmental Education Board、以下 EEB）

その 2；環境教育補助金（Environmental Education Grants Program、以下 EEG）

その 3;環境教育センター(Environmental Education Center、以下 EEC）

その他：教員免許に環境教育学が必須履修単位であり、教員の 5 年ごとの免許更新時に環境教育の単位を必要とする研修制度がある。

１、ＷＩ州の環境教育の施策

（１）環境教育委員会（EEB）

EBB の使命は指導的立場から学習機会を発展させるために、次の４つの目的を持つ。

①環境に関する教養と教育の分野で明確な指導性、諮問と政策を作成。②環境問題を積極的に処理するために、環境に対する気づきと関与を地域のリーダーと市民がはぐくむことを支援。③教育システムのあらゆるレベルで、学際的な環境に基礎を置くカリキュラムを展開して実効的なものにすることを主唱。公式のあるいは非公式の環境教育のあらゆるレベルで働くスタッフに対する専門的な教育を継続して行う

（２）環境教育補助金（EEG）

1990 年に創設、対象は地域社会、学校、団体。毎年 20 万ドル（2000 万円）を 170 プロジェクトに補助。（1996 年調べ）

（３）環境教育センター（EEC）

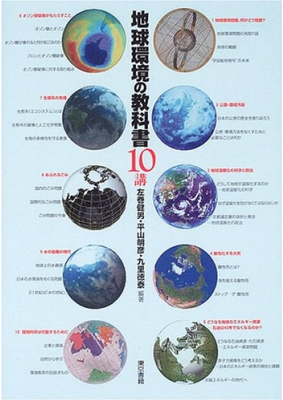
ＷＩ大学スティーブンス・ポイント校の自然資源学部に設置。次の３点を中心に活動。①教材作成；カリキュラム作成ガイドを含む②講師派遣③教師への支援と研修を実施

（４）その他の環境教育施設

①学校林等、②環境ステーション（宿泊・野外活動可）、③ＷＩ大学植物生態園

２、本県との比較

ＷＩ州と本県の主な違いはＷＩ州が公教育部（本県の教育庁）と自然資源部(本県の環境部)の環境教育を横断的に統一する環境教育委員会（ＥＥＢ）を設置して、体制を整え、使命、達成目標などを明確にしている事であろう。ＷＩ州のＷＥＢサイトから多くの環境教育の教材をダウンロードできるし、毎月の研修プログラムや最新の環境情報を得ることができる。千葉県おいては我が国主唱と聞く「国連環境教育 10 年計画」などと連携した、これからのおおいなる発展に貢献したい。



7月のエコサロン講師だった平山明彦氏の本を紹介！

地球環境の教科書１０講／左巻健男・平山明彦・九里徳泰／東京書籍

この本は、次のような３つの使い方を想定しています。
・大学１、２年生対象のテキストとして
・地球環境問題への入門書として
・中学校・高校などの環境教育の参考書として

本書の執筆者および検討委員の 28 人は、環境科学はもちろん、生態学、経営学、科学教育、環境教育の研究や実践、行政など、それぞれの立場から実践的に環境問題に取り組んでいます。

本書がつくられたきっかけは、大学で「地球環境論」の講義を始めた編者の一人が、「講義のテキストになりそうな本をいろいろためしたけれど、“帯に短したすきに長し”で適当な内容やレベルのものがない」と感じたことでした。そこで、環境教育などのメーリングリストに「一緒につくろうという人いませんか」と呼びかけたところ、それに対して、続々と手が上がったため、本書の企画・執筆・編集のメーリングリストを立ち上げて、企画を練りはじめました。執筆の過程では、環境問題について学んだことがない人が読んでもやさしい説明だけど、質は高く、大学のテキストとして自学自習も十分できる本を目指しました。それは“言うは易し、行うは難し”そのものでした。しかし、執筆者・検討委員が全体の原稿を読んで、ときには大きい見地からの意見、ときには細かい指摘などを行い、原稿が仕上がっていきました。そのような意見交換があったからこそ本書には執筆者間の考えの違いよりは共通性が出ていると思います。

本書が地球環境問題を考え、改善の方向を求めて動き出す人たちへのサポートになることができれば幸いです。また、本書を読んで、地球環境問題をさらに深く、あるいは高く学ぼう、研究しようと向かっていく人々にも期待しています。（本書より）

長谷村キャンプを終えて

グループ2000（環境に学ぶ）　代表　横田耕明

テント設営

長谷村（長野県上伊那郡長谷村）は東経138°05´18″、北緯35°47´20″、海抜843mに位置し、人口は695世帯、2,229人（H16.4.1現在）。キャンプ場の鹿嶺高原は、眼下にたおやかな仙丈ヶ岳とそびえる東駒ケ岳や鋸岳、そして中央、北アルプスが一望できる「アルプスの大展望台」。標高 1,800mの高原は真夏でも１８℃の快適さです。ホタルブクロ、ハンゴンソウ、ベニイチヤクソウなどの高山植物が花を咲かせていました。村役場の方々のご指導を受けながら、テント設営を行い、キャンプファイヤーの丸太を自分たちで組み、焼きそばの準備を始めたら、フライ返しがないことが発覚。道具がないなら作ればいいということで、カラマツの乾燥材をノコやナタで加工し作りました。それを見ていた子どもたちは「私も何か作りたい！」「ぼくも！」と言い出し、フォークを作ったり、お箸を作ったり、シャベルを作ったり、どんどん展開していきます。こういう時がチャンスです。子どもたちが興味を示したとき、大人の都合で止めないで、どんどん好奇心をのばしてやることが大事なのです。みんなで作った焼きそばを食べ終わる頃には、夕焼け小焼け。キャンプファイヤーの炎が天をも焦がす勢いで燃え、空には満天の星。「千葉の星の数と全然違う！」と、子どもたち。きっと、忘れられない思い出になったことでしょう。

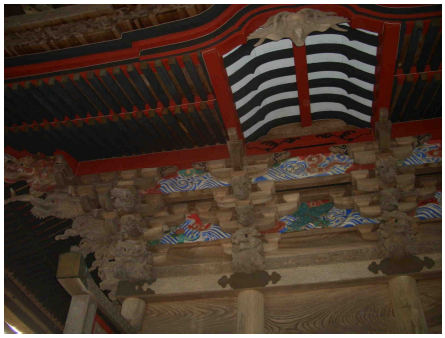
樹齢75年のカラマツの伐採

子ども3人でやっと手が届くほどのカラマツの大木の伐採作業を見学しました。伐採方法（受け口と追い口・倒す方向）も大変興味深いものでした。「ミシ、ミシ、ミシー！」と音を立てて倒れるカラマツは迫力満点。伐採前に「樹齢当てクイズ」をしました。みんなで、年輪を数えて樹齢75年だとわかりました。子どもたちは年輪から、方位やそのときの自然環境がわかることも学びました。地球温暖化が年輪にも顕著に現れていたのはちょっとショックでした。

川遊び

三峰川は仙丈ヶ岳に源を発し、長谷村から高遠町を経て、伊那市で天竜川に合流する天竜川最大の支流で、流長60㎞、高度差2,000m、流域面積526haに及びます。その三峰川の上流での川遊びでは、流れが速くて大人でも足をとられるほどでした。その水はとてもきれいで、ミヤマカワトンボが飛び、カジカガエルの声も聞こえるほどです。川の中では、カワゲラやカゲロウの巣を見つけたり、カジカガエルのオタマジャクシの魚並みの俊敏さや泳力に驚いたり。それぞれの生物の生きる知恵に感動しました。最初は急流で一歩も進めなかった子どもたちも次第にコツをつかみ、1時間もすれば、一人で急流を渡れるようになりました。魚とりに興じる子どもたちがたくましく思えました。言葉でなく、体験の大切さを実感した一日でした。

熱田神社（日本の伝統文化に触れる）



国重要文化財。大和武尊(ヤマトタケル)が東征の帰途、甲斐酒折の宮からこの地に出て、桑の木の下に行宮を建て里人の苦難を除きました。人々は大和武尊の恩沢を慕い、尾張の国熱田神社の形影を移し勧請したといいます。現在の熱田神社本殿は、宝暦9年から同13年(1759～1763)まで5年をかけて建てられた。善美をつくした彫刻を彩色し見事です。長谷村に残る数々の文化遺産から、村の文化の高さが伺われます。

稲毛海岸では味わうことのできない、長谷村での様々な自然体験は、子どもたちを一回り大きく成長させてくれたようです。子どもたちの自主性を重んじた今回のキャンプから、大人も多くのことを学んだように思います。そして、何よりもそれをサポートして下さった長谷村の方々の心の温かさに感激しました。この体験は子どもたちの心に、心温まる思い出として刻まれることでしょう。また、長谷村とのこのようなすばらしい関係を築いて下さった伊藤義和、節子ご夫妻に、心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

「千の葉エコプロジェクト」推進事業について

千葉県環境生活部 資源循環推進課

「千葉県資源循環型社会づくり推進会議」では、県民、ＮＰＯ、事業者などの皆さんによる循環型社会づくりに向けた前向きな活動事例（エコプロジェクト）を随時募集しています。

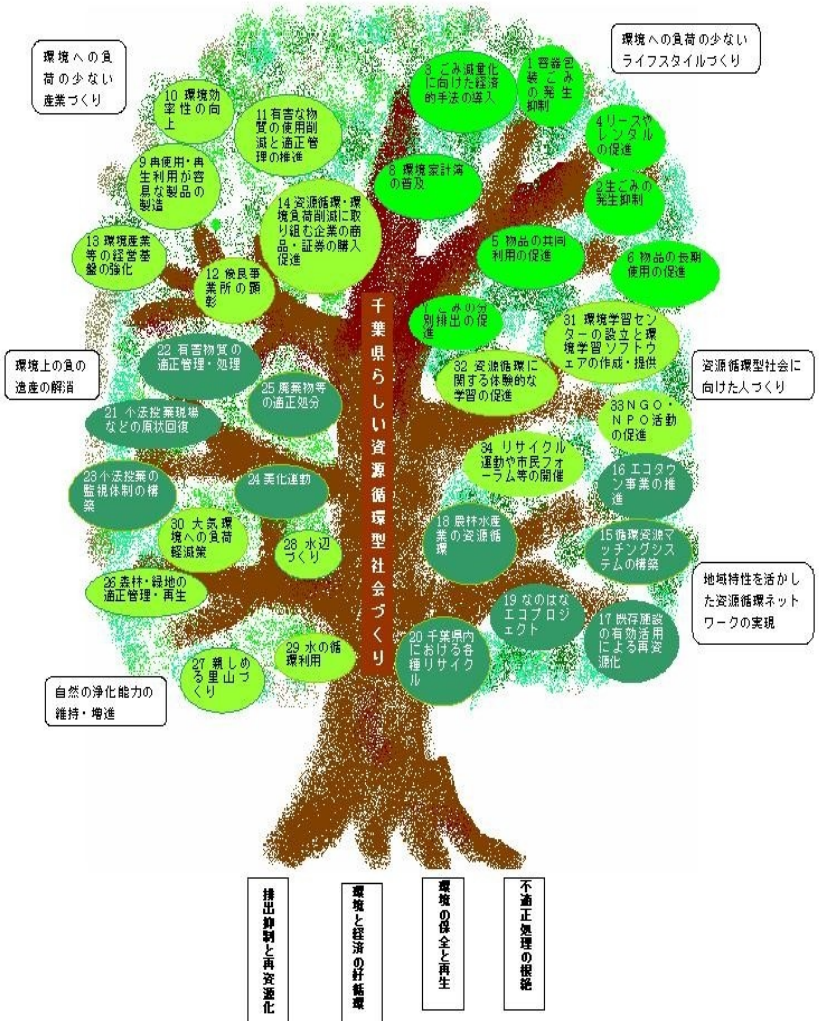
それらを「千の葉エコプロジェクト」として取りまとめ、環境配慮に取り組む皆さんのネットワークづくりや、さらなる賛同者の拡大につながっていくよう、財団法人千葉県環境財団との協働により「環境樹」の形にしてホームページで広く紹介していきます。（「環境樹」の「葉」をクリックすると、それぞれの活動事例が見られる予定です。）

また、千の葉エコプロジェクトのうち、特に先導性が高く、普及可能性が高いと認められる啓発的取組については、応募いただいた方々の意向を踏まえ、「千葉県資源循環型社会づくり推進会議」が必要に応じて協力していきます。積極的な応募をお待ちしています。

＊応募要件等の詳細は、ホームページをご覧いただくか、事務局にお問い合わせ願います。

【ホームページの場合】
「千葉県ホームページ」のトップページの画面左下にある「ちばの環境」をクリック→「千の葉エコプロジェクト」をクリック

【問い合わせ先】
〒２６０－８６６７
千葉市中央区市場町１－１
千葉県環境生活部資源循環推進課
電話０４３－２２３－２７５８



千の葉エコプロジェクトの環境樹

「千の葉」のコンセプトは、千葉県内での様々な取組主体による環境配慮活動を、その「多様性」と「グリーン化」とに着目して「千の葉」に例え、そうした意欲と努力が枝葉を広げ、成長して、資源循環型社会へと実を結ぶ姿をイメージしています。

最近の活動報告から

千葉市エコリーダー連絡協議会　木野村秀夫

この場をお借りして当会の行っている活動の紹介と貴会の活動の助っ人としての提案をいたします。
地元小学校の高学年向けに、電気学会などの経験を生かして、課外学習の出前講座をしております。
また、最近は「食の安全・安心問題」を下記のように取り扱っています。

- 県教育会館、市文化センターの環境月間行事に参加。
- 農水省生活安全局リスクコミュニケーションに出席。
- 内閣府安全委員会主催の講演会に出席。
- 遺伝子組み換え食品、農薬についても、パネル展示やパンフの配布（ちばし環境フェスタ）

貴会への提言

環境問題は多岐の分野に広がっているので、会員がそれぞれ興味のある部会、分科会、専門委員などプロジェクト形式による運営にも配慮いただけるよう提言します。

お知らせコーナ

★ エコサロン

日時：2005年9月27日（火）18：30～20：30
テーマ 「（仮）千の葉プロジェクトとその周辺」
講師：千葉県環境生活部、資源循環推進課　原　正則氏
場所：千葉市中央コミニュテイー
申し込み問い合わせ：中岡丈恵
Fax　０４７－３８５－８９５０
e-mail　naka.hta@trust.ocn.ne.jp
今回の「千の葉プロジェクトは、まったく同時期に、環境リポートちば、（社）千葉県環境保全協議会の冊子、環パだよりにも掲載の予定になっていますが、直接話を聞く機会は、今回が最初となります。そこでできるだけ、多くの方に聞いていただければ、と期待しています。

★ これ以上地球が暑くなったら？ “最近の気候がおかしいのは・・・”

日　時：2005年9月3日（土）13：30～16：30
講　師：田中　優　氏
（法）足元から地球温暖化を考えるネットワーク　理事
テーマ：「だれでもできる、努力しない・ムリない省エネを」
会　場：流山市クリーンセンター　リサイクル館
見　学：クリーンセンター施設見学
対　象：一般（高校生以上）
定　員：50名（先着申し込み順）
締め切り：8月22日（月）
参加費：200円
申し込み問い合わせ：
流山市環境部環境保全課　環境講座担当
FAX：04－7158－5840
e-mail：kankyouhozen@city.nagareyama.chiba.jp

広報部より

1. 皆様の活動やお知らせなどの原稿をお寄せください。
2. ホームページに団体のリンクや連絡先としてメールアドレス等の記載をご希望の方はご連絡ください。

HP：www.geocities.co.jp/NatureLand/4632/

★東京湾・まち育てセッション

～そら・かわ・まち・
みんな東京湾(うみ)でつながっている～
日　時：2005年9月19日（月・祝・敬老の日）
1　部　10:00～12:00
フィールドワークショップ <渡り鳥ゲーム>
2　部　13:00～16:00
SAVE21 東京湾まち育てセッション
※雨天決行　※受付開始　各30分前
(午前のみ・午後のみの参加でも構いません)
場　所：葛西臨海公園　鳥類園
ウォッチングセンター・レクチャールーム
コーディネーター：延藤安弘
（NPO法人まちの縁側育み隊代表理事
・愛知産業大学大学院教授）
申し込み〆切：9月15日(木)
問合せ・連絡先：SAVE21実行委員会事務局
e-mail：　info@yasumoto.com
Tel/Fax：.　044-555-2208　安元方
持ち物：1部のワークショップ参加希望者は動きやすい服装・外歩きができる用意でお越し下さい。
飲み物、全日参加の場合は弁当をご持参下さい。
参加費：500円（半日参加でも同額）
主　催：SAVE21実行委員会
http://www.yasumoto.com/save21/

★ スクラップエコノミーからストックエコノミーへ

日　時：9月17日（土）午後2時～4時（受付　13:30～）
場　所：千葉市民会館　特別会議室2
テーマ：「スクラップエコノミーからストックエコノミーへ」講師：千葉県印旛地域整備センター用地
課長　石渡正佳氏
主　催：NPO法人環境カウンセラー千葉県協議会
参加費：500円（資料代）
定　員：60名（先着順）
申込先：NPO法人環境カウンセラー千葉県協議会
FAX　043-489-8465
E-mail　mori@catv296.ne.jp

古紙100%再生紙使用

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政および専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。
申込先：千葉県環境財団　環境技術部
環境啓発チーム気付
TEL:043-246-2180　FAX:043-246-6969
会費納入先：環境パートナーシップちば
郵便振替口座　00160-9-401872
http://www1.u-netsurf.ne.jp/~kanpachi/

千葉県環境財団環境技術部環境啓発チーム気付

＜環境パートナーシップちば＞ 入会申込書

会の趣旨に賛同し（個人、団体、賛助会員として）
会費を添えて入会します

氏 名		入会年月日	
住 所	〒		
ＴＥＬ		ＦＡＸ	
年会費	個人1,000円　団体2,000円　賛助会員5,000円		